

分野：⑫消費生活・衣食住

食べ物とくらし

環境アドバイザー

関川忠彦

対象 行田市立中央小学校 5年 1、2組 (66人)

所要時間  2時間

場所 校舎内 第二理科室

実施時期 令和2年11月13日

概要

- 1 食べ物は大切なのに身近過ぎて、全体的な学習が少ない
- 2 各家庭の考えや習慣の相違が大きいため、世界の話、日本の実態から共通認識を持たせ、気づいたことを生活習慣に取り組めるようにしたい
- 3 知らないことを知った喜びと感じて考えることの楽しさを習得させる

プログラムの
ねらい

総合の時間に、他の教科と関連する食べ物について、知って考える。身近過ぎて学習の機会が少ないので、まず実態と情報を知り、問題を認識する。日本と世界の問題、特に食糧自給率の低さと食品ロスの多さを知り、飢餓に苦しんでいる人が世界に多数いることから、私たちができることを考える。

プログラムの内容

1 イン트로 (5分)

身近な野菜の原産地クイズから入り、学童の注目を集める

2 本題 (35分)

- 2.1 日本人の昔と今の食生活の変化
- 2.2 食材を多量に輸入する日本、食料自給率、フードマイレージ、輸入物品
- 2.3 日常の各種食べ物の自給率を知り、もし輸入できなくなった時の食事・献立を知り感じる
- 2.4 地産地消とその特長を知り、地球温暖化防止や地域活性化にもなることに気づく
- 2.5 きゅうりなど旬の食べ物が今は一年中食べられる日本だが、問題もある
- 2.6 食べ物がゴミとしてたくさん捨てられている日本の実態
- 2.7 世界で約8億人もの人が、食べ物と栄養不足の悪循環で飢餓状態なのに多量の食料が捨てられている。世界の飢餓の実態写真を見る
- 2.8 消費・賞味期限を知り、家庭から食品ロスを減らすには、行田市の動き
- 2.9 「埼玉を食べよう」資料を学習後の復習として全員に・・・読むだけでも大切と

3 まとめ (5分)

- 3.1 世界で食料不足で苦しんでいる一方、多量の食料が捨てられている→世界の实態を知る
- 3.2 私たちはできることからやる。食べ物のムダや偏食はしない、地産地消と旬を食べる
- 3.3 子供の時、一日3食と朝食はなぜ大切か

受講者の反応

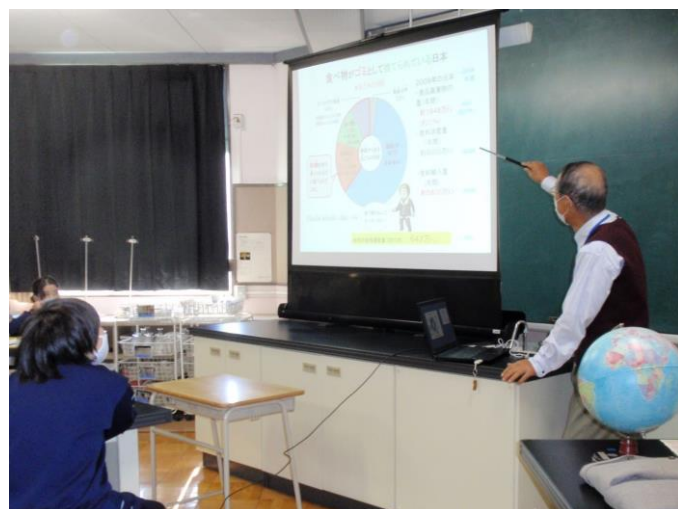
1 担任先生より

- 1.1 社会科で学習した「食料自給率」「地産地消」などが講話に盛り込まれ学習した内容をより深めることができた。家庭科の学習とも関連付けられる良い内容であった。
- 1.2 飢餓の画像で、児童の目が変わった。実態を知るために意味深い資料であった。
- 1.3 見出しごとに丁寧に内容を説明していただいたのが良い。
- 1.4 5年生には難しい言葉もあった。 先進国、日本遺産など
- 1.5 今後も今回同様、授業で学習した内容を、より深められる講義を希望する。

2 講師の感想

- 2.1 子供たちは、身近な対象についての画像講義のためか、感じ・理解できたようだ。
- 2.2 学習内容の画面は担任に一式渡してあるので、後日のQAや復習に役立つとのこと

環境学習の様子（写真）



環境出前学習 行田市立中央小学校

食べ物とくらし

(第6版2020.11)

(私たちの食べ物を考えてみよう)



行田豆吉

2020年11月13日
行田環境市民フォーラム
関川 忠彦

